主題: 一 ただ御父の御旨を行うために地上に来られた、キリスト―

目標: - 一筋に神に従われた主イエス・キリストを学び、そのように生きる者となる一

2020/12/30 キリスト伝①

「天の父に従われるキリスト」 ヘブル10:5~7 p323

キリスト伝とは、主イエス・キリストの伝記である。主イエス・キリストのご生涯を学ぶ中 から、主ご自身を知り、キリストとは誰であるか。また何であるかを考えてみたい。

私たち人間は物心つき、「私」という存在に気がついた時、初めて自分の名前や両親、自分 を取り巻く人々が誰なのかを確認する。しかし、**主**イエス·キリストはそうではない。

主イエス·キリストには33年のご生涯の遙か前、人間には計り知り得ない、永遠の始めから おられた全能者としての、天上でのご存在があった。「神は霊である」とあるように、子なる神 キリストは霊であるので古びることがない。いつでも、どこにでもおられ限界のない方である。

その方が、天の父なる神の御旨に全く従われ、小さな不自由な人間の肉体に宿られ、その肉 体において血を流し肉を裂くことにより、人類を贖うことを引き受けて下さったのである。

それは、天の御父の限りなく深い愛による御思いの中で計画され、人間の全く知らないとこ ろで、粛々と実行に移され、預言者を通して語られたことが成就するという形で実現した。

私たちは自覚していないが、いのちの限界がある。どんなに有能で求めるものを得たとして も、必ず手放さなければならない死という限界である。そしてその死の先に、全能の神の前の さばきがある。そして誰も神の前に罪が無いと、立てる者はいない。自分の罪により永遠の滅 びに定められることが定まっているのが、私たちである。

しかし神は私たちを愛し、憐れみ、私たちの罪をキリストの肉体に身代わりに背負わせ、十 字架で処罰することにより、私たちの罪を赦す道を開かれたのである。

今年のクリスマスは終わったが、ここから主と共に踏み出していけたら幸いである。

「聖書の学び]

- **I、子なる神であるキリスト** (ヨノネ1:1~5 p175)
- 1、天地創造の子なる神
- ①ヨハネは主イエス・キリストについて、どのように表現していますか。 (ヨハネ1:1~3)
- ②それは旧約聖書のどこのことを言っているのでしょうか。 (創世記1:1~3 旧1)
- 2、万物の相続者である御子キリスト
- ①御子なるキリストについては、どのように表現しているでしょうか。(ヘブル1:2~5p437)
- ②御子なるキリストは何を成し遂げられたのでしょうか。(^ブル1:3)

- **II、人間の体を備えられたキリスト** (ヘブル10:1~8 p449)
- 1、旧約の律法には、罪を取り除くために、何を献げるとありますか。
- 2、律法が影である理由は何ですか。(ヘブル10:1~4)
- 3、神はいけにえの代わりに何を求められたのでしょうか。(ヘブル10:5)
- **皿、 神に全く従われたキリスト** (ヘブル10:4~19)
- 1、動物のいけにえを喜ばれない、神様に御子は何を献げられたのでしょうか。(ヘブル10:5,7)
- 2、このヘブル10:5の旧約の出典箇所、詩篇40:6~8 (IIp974)を読みましょう。 「あなたは私の耳を開いてくださいました」は、出エジプト21:6(IIp136)の解放される 奴隷が、愛する者のため、続いて主人に仕えたいとき、耳をきりで刺し通すことを表し ています。
- ①このことから、御子であるキリストがしてくださったことについて、どのような意味があるか、考えてみましょう。(詩篇40:6)
- ②神に対してどのようにすることを喜ばれたのでしょうか。(詩篇40:8)

主に従って、主と同じ姿に

1800年代中国で伝道していた宣教師はみな、洋服で伝道していました。

ハドソン・テーラーも同じようにしていました。しかし、どんなに努力しても中国人は心を閉じてい たのです。

祈っていたある日、キリストは神の栄光を捨てて、なぜ人となってこの世に来て下さったか考えていたとき、そのことの中に、中国人の伝道についても、解決策を見いだすことができました。

彼は洋服を脱ぎ、弁髪を結い、中国服を着て中国語を習い、名前も中国名を名乗るようにしました。同労の宣教師からは非難され、笑われ、仲間はずれにもなりました。

しかし、彼の姿を見た中国人たちは、彼の所にぞくぞくと集まってきました。そして、心開いて彼 の話を聞き、福音を受け入れイエス・キリストを救い主と信じるようになったのです。

それから、あの有名な中国奥地宣教会(China Inland Mission)が始まったのです。

- * ディスカッション (心を開いて話し合ってみましょう)
- Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。